

# 平成29年3月期決算説明会

- I 平成29年3月期 連結業績概要
- II 平成30年3月期 連結業績見通し
- III 中期経営計画について
- IV 中長期開発コンセプトについて
- V 新製品開発状況について

2017年5月25日  
日本化学工業株式会社



# I . 平成29年3月期 連結業績概要

## 平成29年3月期 連結業績

(百万円)

	平成28年3月期	平成29年3月期	増減	前年同期比
売上高	35,966	33,484	▲2,482	93 %
営業利益	3,452	3,336	▲116	97 %
経常利益	3,403	3,460	57	102 %
純利益	2,464	2,557	93	104 %

# 平成29年3月期 事業別の収益

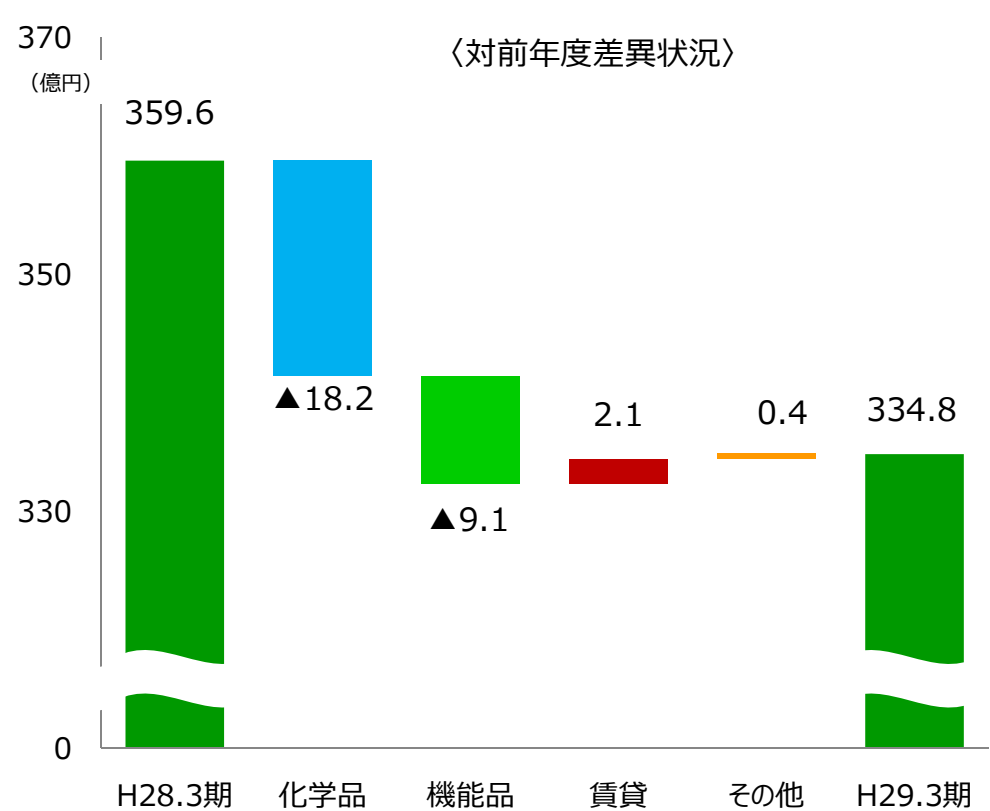
(百万円)

		平成28年3月期	平成29年3月期	増減	前年同期比
化学品事業	売上高	18,611	16,783	▲1,827	90 %
	営業利益	1,872	1,462	▲410	78 %
機能品事業	売上高	12,632	11,712	▲919	93 %
	営業利益	910	944	34	104 %
賃貸事業	売上高	556	771	215	139 %
	営業利益	395	494	99	125 %
その他	売上高	4,166	4,216	49	101 %
	営業利益	254	421	167	166 %
合計	売上高	35,966	33,484	▲2,482	93 %
	営業利益	3,452	3,336	▲116	97 %

# 平成29年3月期 売上高実績

	(億円)		
	H28.3期	H29.3期	前年同期比
化学品事業	186.1	167.8	90 %
機能品事業	126.3	117.1	93 %
賃貸事業	5.5	7.7	139 %
その他	41.6	42.1	101 %
合計	359.6	334.8	93 %

- (クロム製品) 鉄鋼向け・めっき向け低調
- (シリカ製品) 環境関連向け、土木向け落ち込み
- (りん製品) 液晶・半導体向け堅調
- (農薬) 海外向けで在庫調整による影響で減少
- (電子セラミック材料) 顧客の在庫調整を受け減少
- (回路材料) 中・小型パネル向け低調
- (賃貸) 西淀川再開発の進捗が寄与



## 連結貸借対照表（資産の部）

（百万円）

	平成28年3月期末	平成29年3月期末	増減
【資産の部】			
流動資産	26,959	26,429	▲530
現金及び預金	9,745	8,544	▲1,201
受取手形及び売掛金	8,871	9,229	358
たな卸資産	7,347	7,539	192
その他流動資産	996	1,117	121
固定資産	31,243	31,913	670
有形固定資産	23,346	23,709	363
無形固定資産	1,000	573	▲427
投資有価証券	5,482	6,584	1,102
その他の資産	1,415	1,047	▲368
資産合計	58,203	58,342	139

# 連結貸借対照表（負債・純資産の部）

（百万円）

	平成28年3月期末	平成29年3月期末	増減
【負債の部】			
流動負債	16,759	19,209	2,450
支払手形及び買掛金	3,126	3,327	201
短期借入金	9,445	11,645	2,200
その他流動負債	4,188	4,237	49
固定負債	12,574	6,932	▲5,642
長期借入金	6,440	2,000	▲4,440
退職給付に係る負債	2,315	866	▲1,449
繰延税金負債	2,095	2,370	275
その他長期負債	1,724	1,695	▲28
負債合計	29,333	26,142	▲3,191
【純資産の部】			
株主資本	26,700	28,729	2,029
その他の包括利益累計額	2,169	3,470	1,301
純資産合計	28,869	32,200	3,331
負債・純資産合計	58,203	58,342	139

# 連結損益計算書

(百万円)

	平成28年3月 期末	平成29年3月 期末	増減	前年同期比
売上高	35,966	33,484	▲2,482	93 %
売上原価	27,237	25,091	▲2,146	92 %
販売費・一般管理費	5,276	5,056	▲220	96 %
営業利益	3,452	3,336	▲116	97 %
営業外収益	254	466	212	
営業外費用	304	342	38	
経常利益	3,403	3,460	57	102 %
特別利益	451	—	▲451	
特別損失	702	458	▲244	
税金等調整前純利益	3,152	3,002	▲150	95 %
法人税等	618	524	▲94	
法人税等調整額	69	▲79	▲148	
純利益	2,464	2,557	93	104 %



# 連結キャッシュフロー計算書

(百万円)

	平成29年3月期末
<b>I 営業活動によるキャッシュフロー</b>	<b>3,837</b>
税金等調整前当期純利益	3,002
減価償却費	1,904
たな卸資産増減	▲191
その他	▲878
<b>II 投資活動によるキャッシュフロー</b>	<b>▲2,270</b>
設備投資支出	▲2,110
その他	▲160
<b>III 財務活動によるキャッシュフロー</b>	<b>▲2,770</b>
借入金の増減額	▲2,240
配当金支払い額	▲524
その他	▲6
<b>IV 現金及び現金同等物に係る換算差額</b>	<b>2</b>
<b>V 現金及び現金同等物の増減額</b>	<b>▲1,201</b>
<b>VI 現金及び現金同等物の期首残高</b>	<b>9,735</b>
<b>VII 現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>8,534</b>



## Ⅱ. 平成30年3月期 連結業績見通し

## 平成30年3月期 連結業績見通し

(百万円)

	平成29年3月期	平成30年3月期 見通し	増減	前年同期比
売上高	33,484	35,000	1,516	105 %
営業利益	3,336	2,500	▲836	75 %
経常利益	3,460	2,300	▲1,160	66 %
純利益	2,557	1,600	▲957	63 %

## 平成30年3月期 事業別の収益見通し

(百万円)

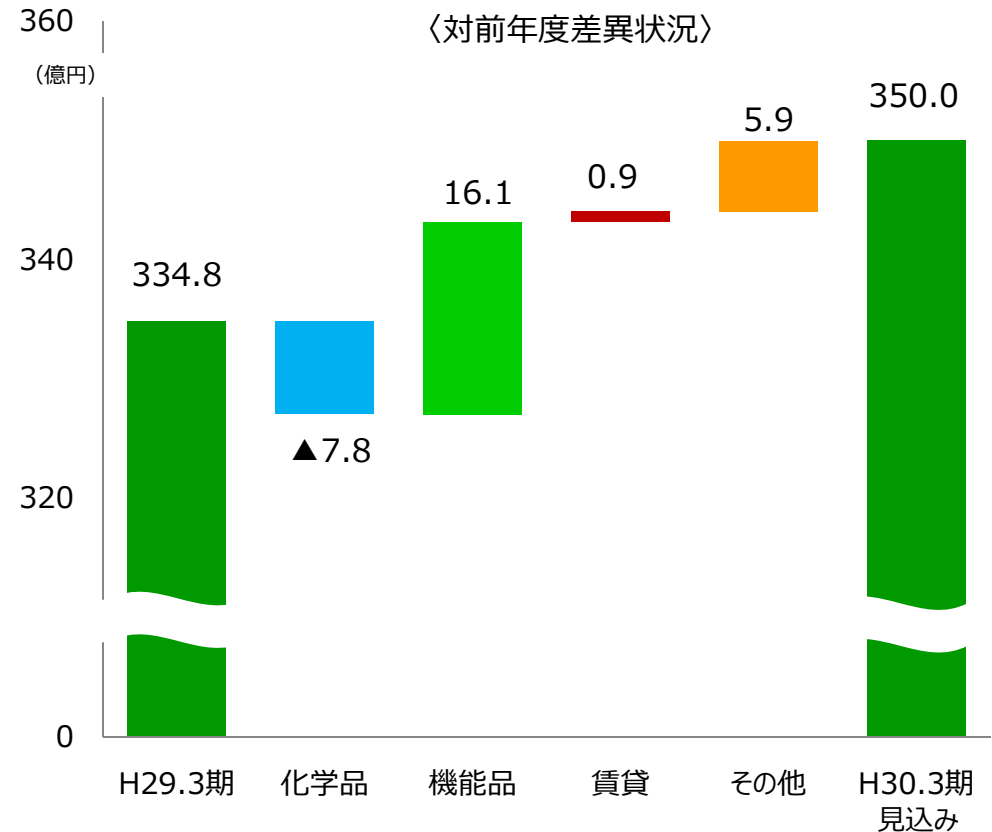
	平成29年3月期	平成30年3月期 見通し	増減	前年同期比
<b>化学品事業</b>				
売上高	16,783	15,994	▲789	95 %
営業利益	1,462	549	▲913	38 %
<b>機能品事業</b>				
売上高	11,712	13,330	1,618	114 %
営業利益	944	1,114	170	118 %
<b>賃貸事業</b>				
売上高	771	870	99	113 %
営業利益	494	487	▲7	99 %
<b>その他</b>				
売上高	4,216	4,806	590	114 %
営業利益	421	350	▲71	83 %
<b>合計</b>				
売上高	33,484	35,000	1,516	105 %
営業利益	3,336	2,500	▲836	75 %

# 平成30年3月期 売上高見通し

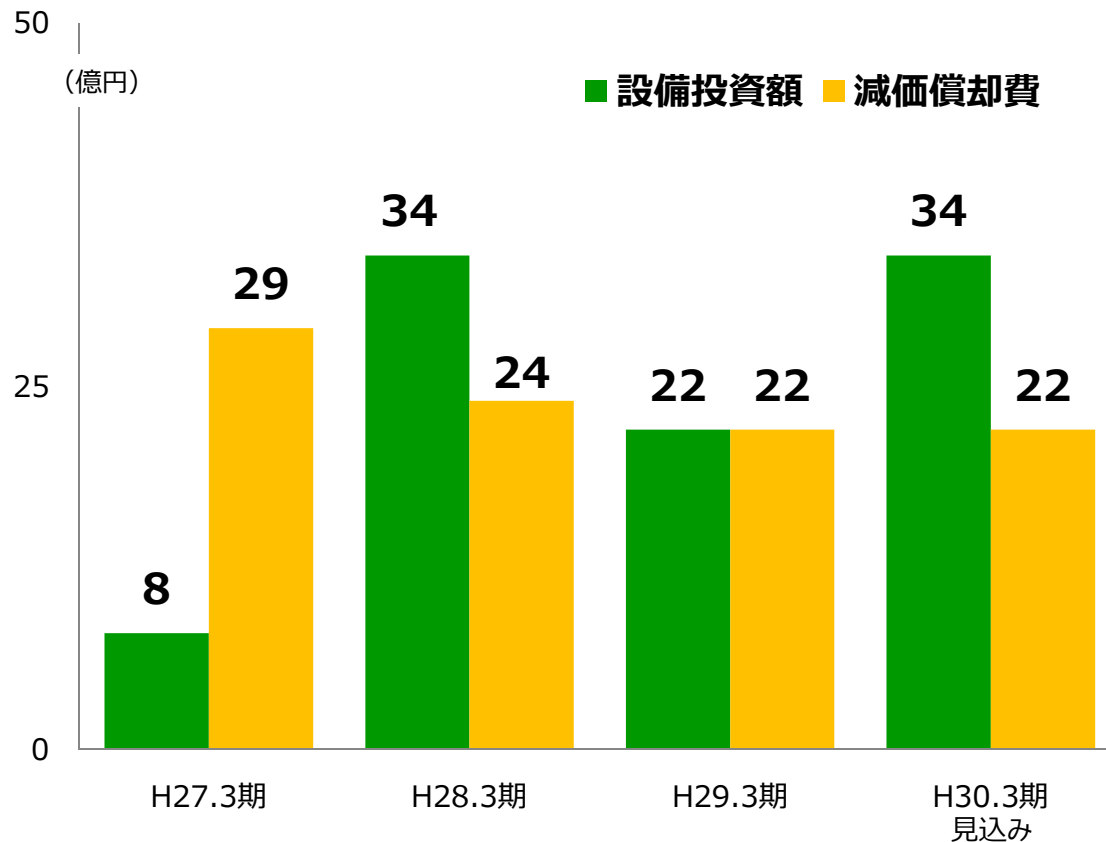
(億円)

	H28.3期	H29.3期	前年同期比
化学品事業	167.8	159.9	95 %
機能品事業	117.1	133.3	114 %
賃貸事業	7.7	8.7	113 %
その他	42.1	48.0	114 %
合計	334.8	350.0	105 %

- (クロム製品) 国内、海外向けとも増加を見込む
- (シリカ製品) 環境関連向けの減少を見込む
- (りん製品) 堅調な推移と見込む
- (ホスフィン誘導体) 海外向け増加を見込む
- (農薬) 在庫調整の影響が残ると見込む
- (電池材料、電子セミック材料、回路材料) 順調と見込む
- (賃貸) 西淀川再開発の完成で増加を見込む
- (その他) 空調関連で新規設計施工の増加を見込む



## 設備投資額と減価償却費



～H27年3月期 設備投資額の抑制

H28年3月期 西淀川再開発事業に  
集中投資

設備投資抑制により、減価償却費は  
下降トレンド

H30年3月期より、重点分野へ積極  
的な集中投資を開始



## Ⅲ. 中期経営計画

# 前中期経営計画と実績

## 基本方針

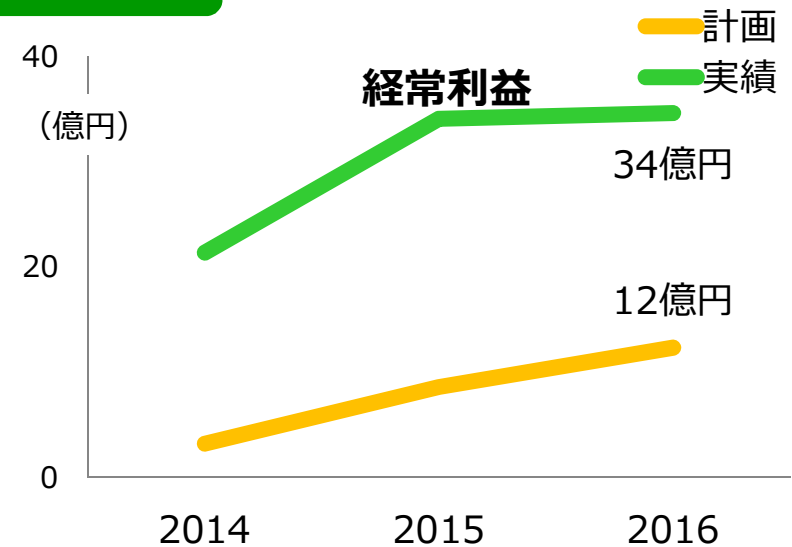
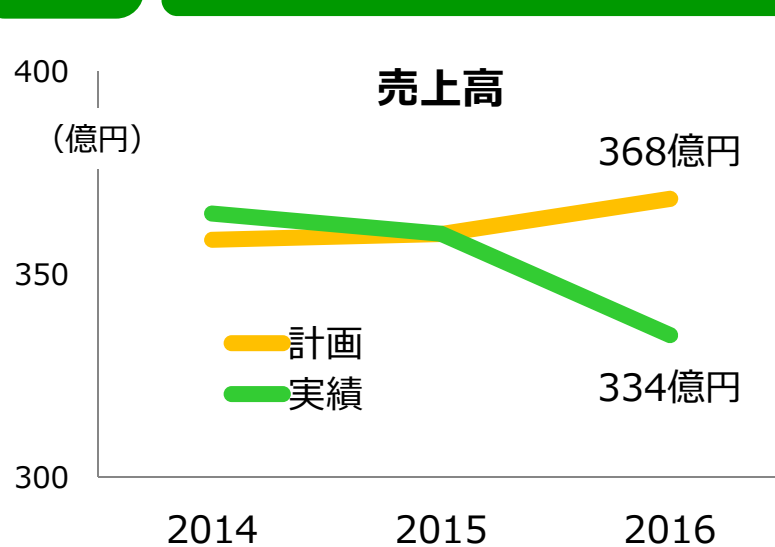
### 1. 中期経営計画数値の必達

- 売上高計画の実現
- 経常利益計画の実現

### 2. 最大限の経営効率化と経営安定化の実現

売上：未達

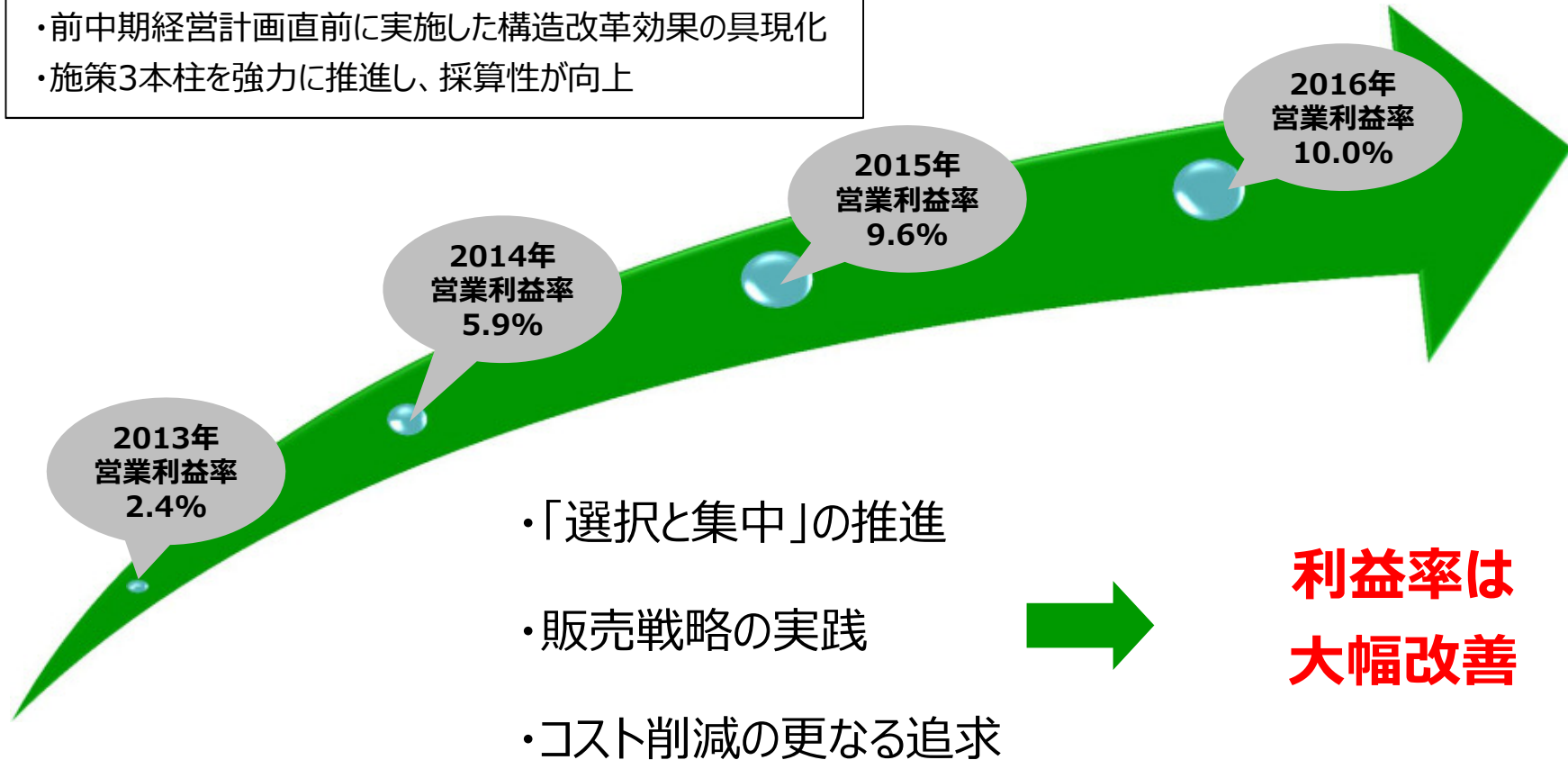
利益：達成





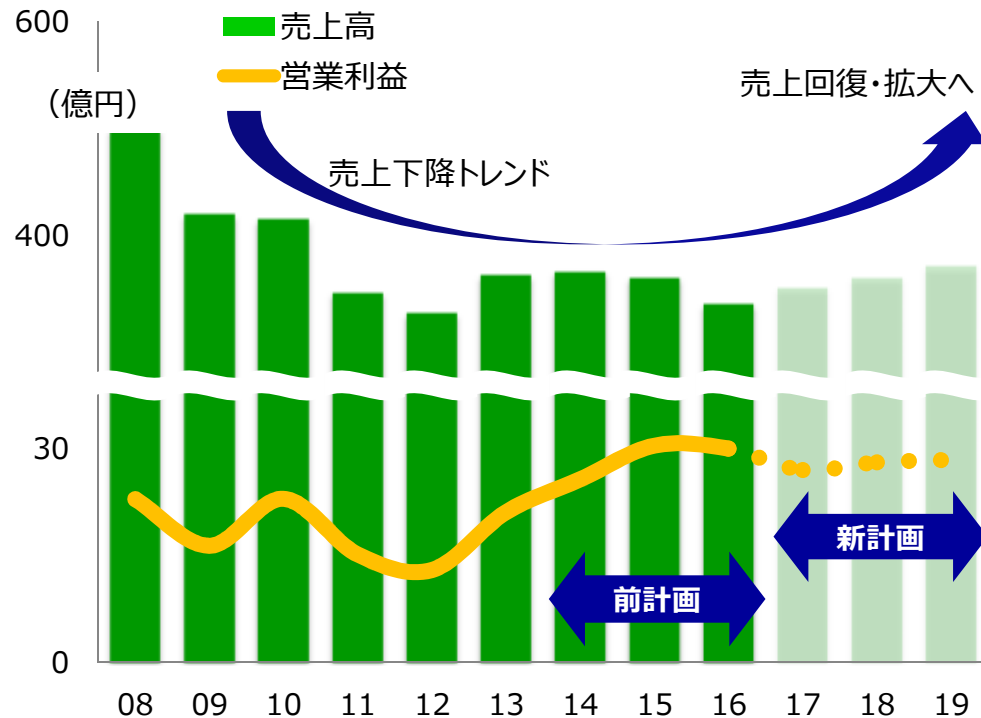
## 前中期経営計画の施策

- ・前中期経営計画直前に実施した構造改革効果の具現化
- ・施策3本柱を強力に推進し、採算性が向上



# 前中期経営計画で浮上した当社課題

売上は外部環境の好転もあり、前中期経営計画期間中は若干回復も、ここ10年では下降トレンド。  
利益は構造改革や施策効果もあり回復の兆し。  
今後の成長には売上の回復・拡大が必須。



## 営業・研究開発の強化



- ・国内既存事業のシェア維持
- ・新規顧客開拓
- ・海外売上高の拡大
- ・新製品開発の早期化
- ・重点開発テーマへの集中投資



# 中期経営計画（2017～2019）

# 中期経営計画方針

## 持続的安定収益の実現に向けて

重点分野への集中投資	海外戦略の積極的展開	経営基盤の強化
<ul style="list-style-type: none"><li>・機能品事業の拡張</li><li>・次世代製品を取り込んだ新工場建設</li><li>・M&amp;Aの推進</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・アジアマーケットへの積極的販売</li><li>・海外事業所の連携強化</li><li>・東南アジア生産拠点設立の検証と実現</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・国内既存マーケットの巻き返し</li><li>・保有資産の有効活用</li><li>・人材育成の促進</li></ul>

成長戦略

構造改革・強化

# 中期経営計画施策①

## 重点分野への集中投資

### 機能品事業の拡張

- ・電子材料向け製品、有機関連製品を成長分野と位置付け、リソースを集中。
- ・従来のグレード開発に加え、当社固有技術を用いた新規開発品の上市に注力。

### 次世代製品を取り込んだ新工場建設

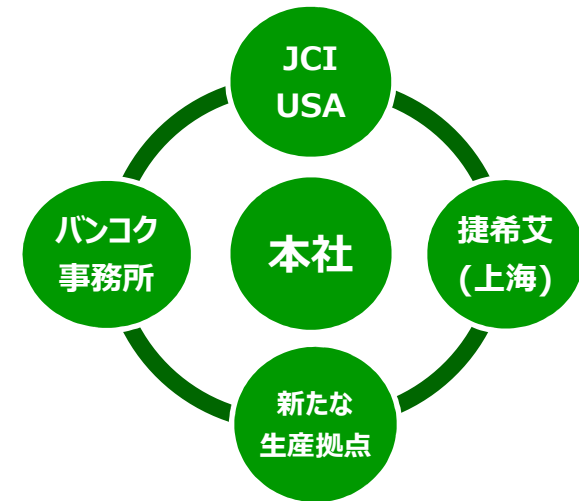
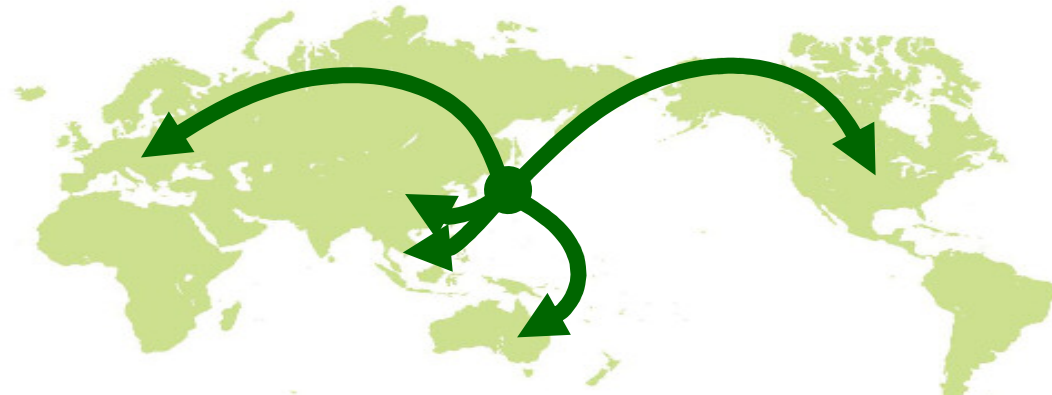
- ・顧客との連携強化を図り、拡大するマーケットに追従。
- ・当計画期間中に大規模投資を計画。
- ・次期中期経営計画、BCPを見据えた計画の策定。

### M&Aの推進

- ・国内、海外を問わずターゲットを選定。
- ・既存領域に限らず、新領域も対象。
- ・資本参入や業務提携も視野。

## 中期経営計画施策②

### 海外戦略の積極的展開



足元10%強の海外売上高比率を20%以上に引き上げるべく、各拠点の連携強化を図る。

#### JCI USA

- 欧米に展開。
- クロスボーダー取引促進の中心を担う。

#### 捷希艾(上海)

- 中国全域をカバー。
- 原料調達拠点から、販売網の拡大ヘシフト。

#### バンコク事務所

- 現法を立ち上げ、アジア新興国市場を中心に開拓。
- 東南アジア、オセアニア地域での存在感を高める。

#### 新たな生産拠点

- 地産地消をコンセプトに東南アジア地域への進出を目指す。

## 中期経営計画施策③

### 経営基盤の強化

国内既存マーケットの  
巻き返し

- ・各製品の将来性を見極め、攻勢可能な製品のシェア拡大を目指す。既存顧客とのリレーション強化に限らず、新規顧客獲得に注力したシェア拡大を目指す。
- ・コストに拘り、更なる原価低減策を実行する。

保有資産の有効活用

- ・事業に供していない有形、無形資産を洗い出し、事業用資産としての活用方法を検討し、収益化を図る。  
(遊休地、特許、製造技術)

人材育成の促進

- ・計画達成のために必要となる人材の教育と確保を図る。
- ・個を最大限に引き出す積極的な配置転換と組織的な戦略運営を実行する。

# 主要数値計画

当計画は5年後、10年後のありたい姿を実現するための土台作りと位置付け。

(億円)

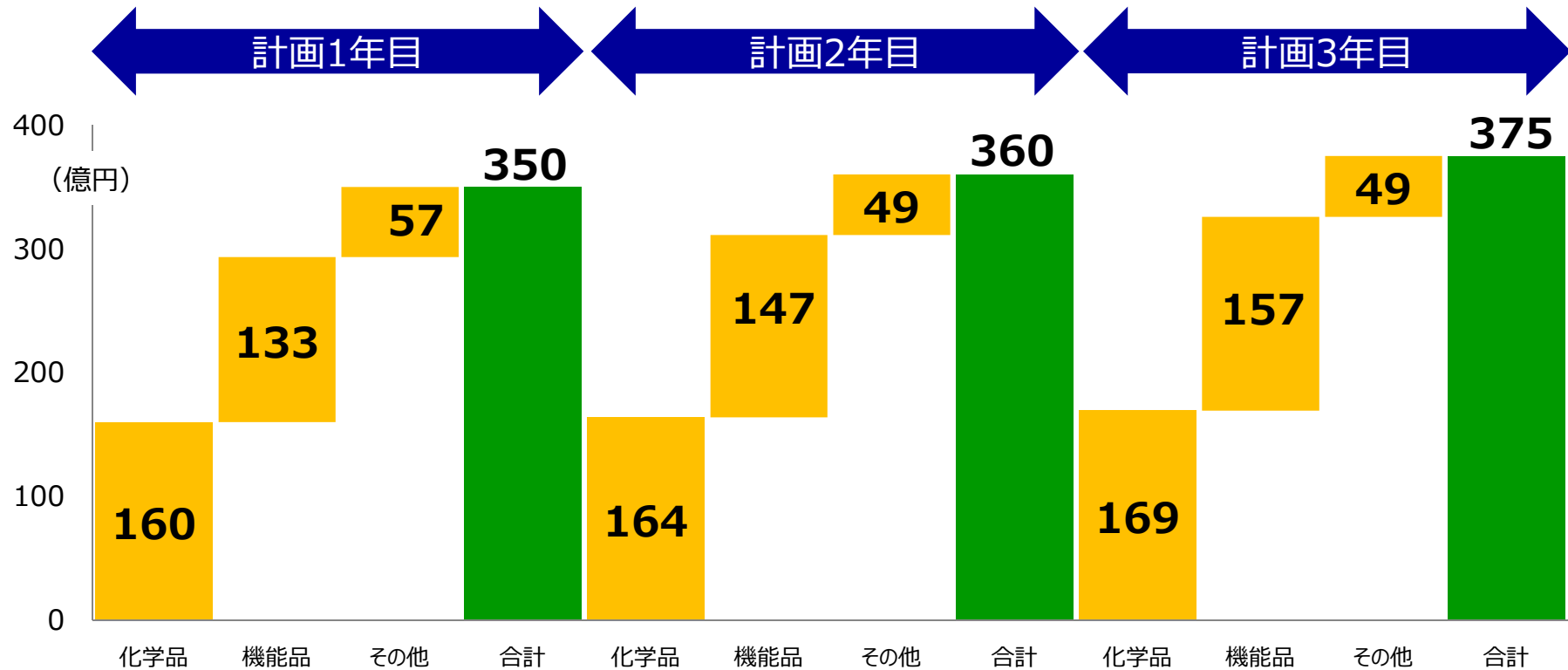
	2016年度 前計画3年目	2017年度 計画1年目	2018年度 計画2年目	2019年度 計画3年目
売上高	334	350	360	375
営業利益	33	25	28	29
率 (%)	10.0	7.1	7.7	7.7
設備投資額	22	34	53	30
新製品売上高*	23	22	28	20

\* 製品登録した年度から翌々年度までを新製品として区分する。



# 売上計画（セグメント別）

化学品は微増、機能品分野の売上拡大を加速、その他事業は安定。



# 人を大切に、技を大切に

化 学 に 新 し い 風



**new Challenge** + **new Creation** = **new Chemical**

<人>

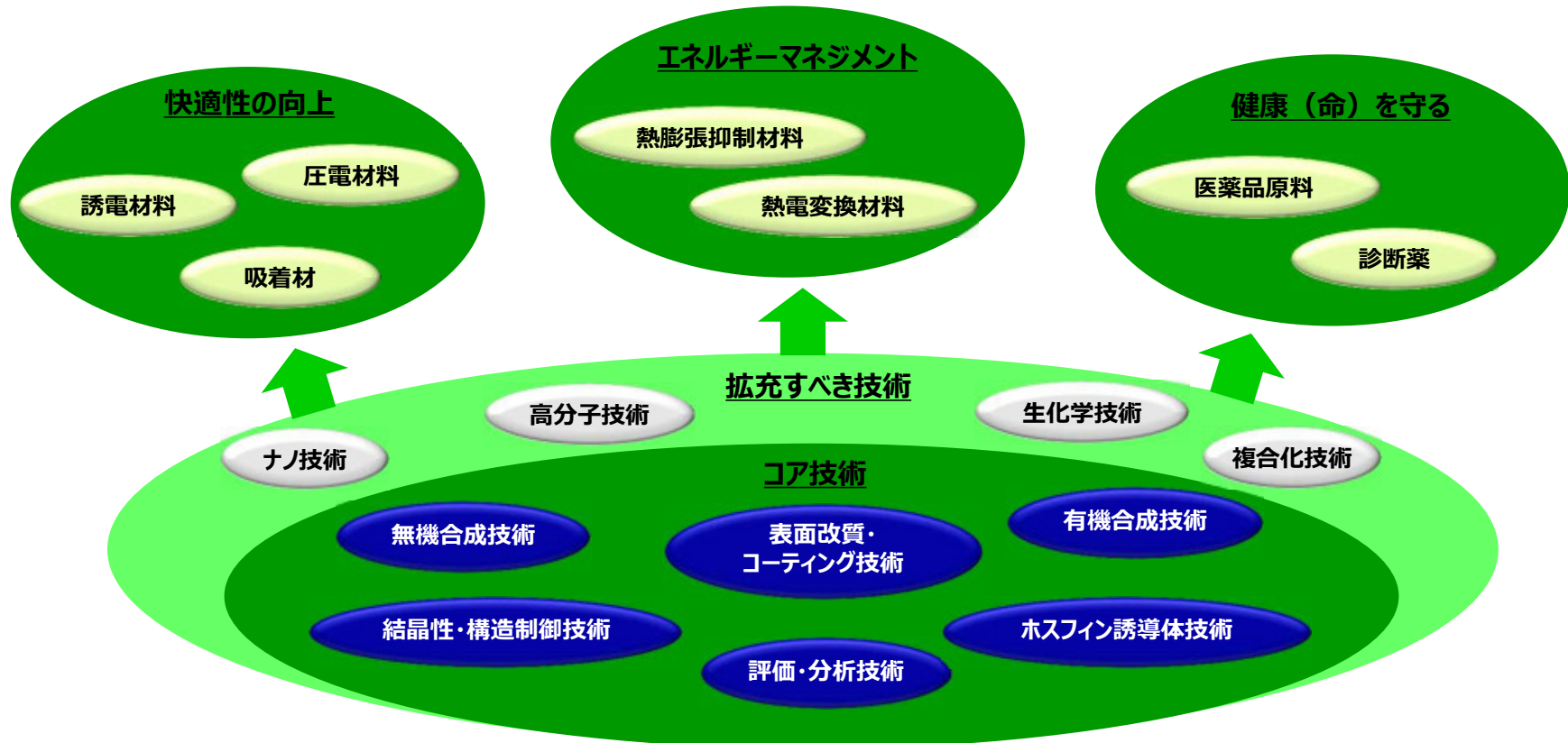
<技>



## IV. 中長期開発コンセプトについて

# 中長期開発コンセプトについて

・当社技術の検証を終え、新技術を取り入れながら、新市場、新分野の開拓に向けた取り組みが進行中。



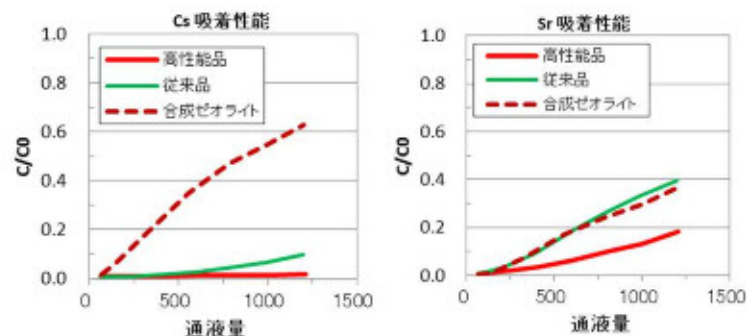


## V. 新製品について

# ピュアセラムの開発動向

## ★Cs/Sr同時吸着剤の高性能化

採用実績のある従来品に比べて2倍以上の性能を達成  
 ※当社条件による(1/20海水)



Cs/Sr同時吸着剤

## ★応用製品の開発

- ・ヨウ素酸・アンチモン酸吸着剤
- ・ヨウ素/ヨウ素酸(I/IO<sub>3</sub>)同時吸着剤
- ・高塩濃度汚染水(海水)からのSr吸着剤



ヨウ素酸吸着剤

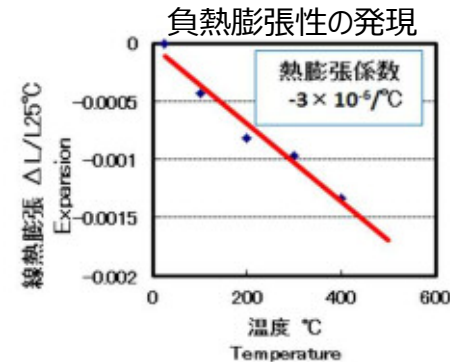


様々な製品形態へ...

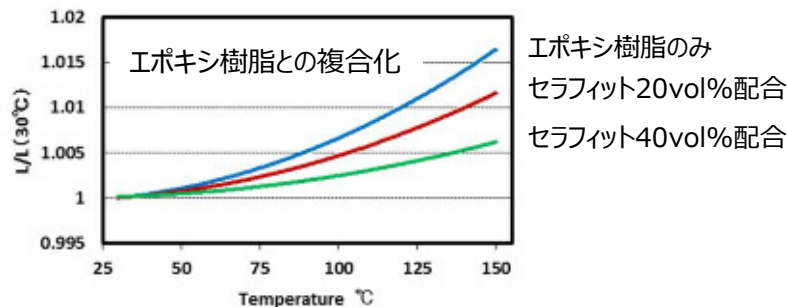
原子力発電所向け吸着剤納入の実績と技術をもとに、  
 一般除染向け、重金属吸着剤などの用途開発を進めており、  
 特殊吸着剤としてグローバルな展開を目指しています

# 負熱膨張材「セラフィット」の開発動向

複合酸化物合成技術を応用し、リン酸タングステン酸ジルコニウム  $Zr_2WO_4(PO_4)_2$  の粉末を合成しました。熱膨張係数は「 $-3\text{ppm}/^\circ\text{C}$ 」と負の勾配を示す材料です。高精度が求められるデバイス材料において 負熱膨張材を樹脂やセラミックなどの各種材料に配合、コンポジット化することで熱膨張を抑制し、温度による材料の寸法変化を低減することができます。



(1m長の材料の温度を100°C上昇させた時、0.3mm縮む)



- 〈競合材料〉
- ・溶融シリカ
  - ・β-ユークリプタイト (LiAlSiO<sub>4</sub>)
  - ・ZW (タングステン酸ジルコニウム)

---

## おことわり

当資料に記載されている業績予想・事業計画は、本資料の発表日現在において入手可能な情報から種々の前提に基づいて当社が作成したものです。

記載された将来の計画数値や施策の実現を確約したり、保証するものではありませんので、ご承知おき下さい。